

# 生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	ストロークコール発動例の臨床的特徴の解析		
1. 研究の目的と方法	入院中に発症する脳卒中(院内発症脳卒中)では、院外で発症して救急受診する脳卒中(市中発症脳卒中)と比べて初期対応までの時間が遅延します。これに対して当院では、院内発症脳卒中の第一発見者が脳卒中専門医に直接連絡する体制(ストロークコール)を採用することで、初期対応までの時間を短縮させようとしています。ただし、第一発見者の多くは脳卒中を専門とするスタッフではないために、せん妄等の脳卒中ではない状態だと誤った判断をしてしまったり、脳卒中症状を見落としてしまったりするために、ストロークコールまでの時間が遅延することがあります。しかしながら、こうした院内発症脳卒中の特徴や見落されやすい脳卒中症状の特徴はわかっていません。本研究では、ストロークコール例における脳卒中例の臨床的特徴や見落されやすい症状を検討し、将来的にはスタッフ教育にこれらの知見を活かしてすることを目的とします。 ストロークコール発動時に脳卒中を疑い検査していく中で得られる臨床情報や各種検査(血液検査, 画像検査)を用いて、を評価します。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2029 年 12 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2021 年 10 月 1 日～2025 年 10 月 1 日に東京慈恵会医科大学附属病院に入院中にストロークコールが発動された方		
4. 研究に利用する 試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	診断名、性別、年齢、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査、生理検査)、家族歴・生活歴・嗜好歴・治療内容 など	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 内科学講座 脳神経内科
		氏名	井口保之
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	内科学講座 脳神経内科 貴田 浩之	

	(4) 共同で研究を実施する施設とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2026 年 1 月頃～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 内科学講座 脳神経内科 研究責任者：教授 井口 保之（イグチ ヤスユキ） 窓口担当者：助教 貴田 浩之（キダ ヒロユキ） 電話番号：03-3433-1111（内線 2543） 対応時間：平日 9：00 ～ 17：00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。  
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。